

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学/作陽音楽短期大学/岡山県作陽高等学校



津山キャンパス時代の作陽学園 (黄枠内)

遠く中国山地大山を望む。

- 「大学の源流としての短期大学60年の歩み」…3頁
学校法人作陽学園
理事長 松田英毅
- 「質保証と自己点検・評価を問い直す」…4頁
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
学長 有本章
- 「犠牲者にとどけ 鎮魂の祈り」…5頁
音楽学部長 林原郁雄
- 「本学が取り組む栄養教諭養成について」…6頁
食文化学部長 栄養学科長 山下静江
- 「完成年度を迎えて」
-不易なるものと[只今即今]の精神- …7頁
子ども教育学部長 山野井敦徳
- 「短期大学創立60周年を記念して」…8頁
作陽音楽短期大学
音楽学科長 丹代 茂
- 「岡山県作陽高等学校」
……………9~11頁
- 鶴声会近況報告・
翠会だより…14頁
- 演奏会等のご案内…15頁

発行所

学校法人作陽学園

岡山県倉敷市玉島長尾3515 TEL.086・523・0888 (代)



翔陽祭2011 開催!!

今年も年に一度のお祭り「翔陽祭」が開催されました！
今回のテーマは「LINK～すべての人に笑顔を～」。学祭を通して、家族、友達、そして地域が笑顔でより強く繋がる学祭となりました。当日は模擬店をはじめ、企画イベントに演奏、LIVEと様々な見どころが目白押し！
ゲストライブは「TEE」さんでした。



大学の源流としての短期大学60年の歩み

理事長
まつだ ひでき
松田英毅



今年、作陽音楽短期大学は創立60周年を迎えました。これまでの短期大学の歴史を創ってくださった教職員と卒業生ならびにご支援くださった多くの方々に心から感謝申し上げます。

作陽音楽短期大学の前身である作陽短期大学は、短期大学制度が出来た翌年、昭和26年に岡山県下では初認可として、「宗教的情操教育を施し信念と道義心とを涵養し、地方文化の向上を図る」ことを使命とし、家政科単科で発足しました。取得できる資格は中学校2種普通免許状（家庭）と高校仮免許状（家庭）で昭和26年4月21日第一回入学式が行われ、家政科38人の初めての作陽短大生を迎えました。初代学長は菅原真治先生で、松田藤子学園長の岡山県女子師範学校在勤当時の校長でありました。菅原学長の指導方針は実力を身につけることが第一でありました。熱心で勉学に積極的に取り組んだこれらの学生は、卒業後もその人となり社会で高く評価され、誠実で健康的だとの折り紙は現在の卒業生へと続いています。

昭和28年に第一回の卒業生38人が巣立っていきましたが、小学校、中学校、高校の教員として全員就職しました。昭和29年には、高校仮免許状下付の特典が無くなった上、教員採用は試験制度となり、短大の魅力が小さくなりました。これを打開すべく昭和32年に一年過程の専修別科（定員30人）を新設しました。昭和32年の保母資格取得の為の一部試験科目免除指定以来、短大のイメージが高まる中、家政科への入学希望者が増えたことと地域の要望が増えたこともあり、学園創立30周年の節目に保育科設置の申請をし、36年に認可されました。保育科は幼稚園教諭と保母の養成を目的とするものでした。続いて家政科と保育科のみであった短大に音楽科を増設することとなりました。それは「保育科も緒についた、良い保母を育成するには音楽に強い保母でなければならない。高い音楽力を身につけた保母を育てたい」との理由で昭和38

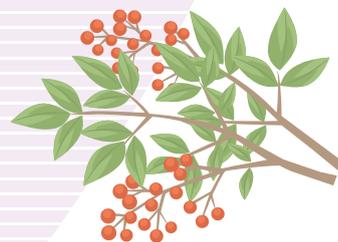
年に設置しました。音楽科の教授陣には全国的に著名な音楽家を数名招聘しました。

その後、短大二年間では完全を期し得ないという音楽科の学生のために、昭和41年に音楽学部の単科大学を開学しました。短大音楽科は、学部と一緒にオーケストラ演奏会や卒業演奏会を行い、学生たちは意欲と誇りをもって勉学に励みました。また音楽の町津山を目指し、吹奏楽、合唱、弦楽合奏、オペラコンサート、定期演奏会、パーカッションコンサート、ピアノのための夕べなど、多彩な音楽会が毎年開かれ、市民と大学を結ぶ楽しい催しとなりました。知名度を上げるために先生方が率先して中国・四国・九州の各県の高校へ赴き学生募集を常時行いました。

昭和45年に家政科、保育科をそれぞれ家政学科、幼児教育学科に名称変更し、46年には家政学科を家政専攻と食物栄養専攻に分離し、それぞれ定員40名とし、食物栄養専攻は男女共学とし、栄養士養成施設として発足しました。昭和60年頃、我が国は急速にIT社会に突入し、その人材を求める声に応じて大学全体の移転も視野に入れ、岡山市矢津に校地を購入し昭和62年に情報処理科を設置しました。

平成8年バブル経済が崩壊し少子高齢化も進む中、幸いにも倉敷市の誘致をいただき音楽大学と短大音楽科が交通至便な現在地に移転をしました。時代の流れは短大から四大志向へと動き始めたこともあり食物栄養を中心に短大家政学科から食文化学部を設置し、管理栄養士、栄養士養成校となりました。また情報処理科は工学部あるいは大学院も検討しましたが、他大学がかなり先行していたことから各学部の情報教育充実として改組しました。短大の幼児教育学科の現場に強い高い教育力の伝統を引き継ぎ、21世紀の子どもの教育に活躍する人材育成の為に平成20年に子ども教育学部を新設しました。この学部には時代の要請もあり特別支援教育にも力を入れています。短大が音楽科のみになったため音楽短期大学に名称変更しました。

現在くらしき作陽大学の音楽、食文化、子ども教育の全ての学部は、その源流は短大にあります。宗教を中心とした人間教育、誠実で行動力のある学生、そのような伝統をもつ短大から学部が出来、その中に作陽の精神は生きています。



質保証と自己点検・評価を問い直す

学 長
ありもと
有 本
あきら
章



最近の大学に関する統計を紐解くと、かつて204万人の大学を記録した18歳人口は次第に下降し、本年は120万人程度まで落ち込みましたけれども、大学進学率の方は着実に上昇をつづけており、本年は四大と短大を合せ57%に達し、高等教育のユニバーサル段階が定着したことが分かります。リーマンショック以来の世界的不況の影響を受けて、大学生の就職率は60%と依然として「超氷河期」に喘いでいる過酷な現実がありますが、次第に大学生が増え続ける状況を反映して、大卒が社会に占める比重は年々増加の一途を辿っている事実があります。総勢77万人の就職者のうち、中卒や高卒の比重が減少するのに反比例して大卒の占める割合は34万人と50%近くに達しています。この空前の事実を踏まえると、社会的比重を増す大学生一人ひとりの学習力、学力、就業力など大学教育を中心にした高等教育の「質保証」(quality assurance)の在り方がこれからの日本社会発展の命運を左右すると言っても過言ではないでしょう。

知識社会を迎えた21世紀は、増加する大学生の「学士力」を高め、同時に「社会人基礎力」を高めることが社会的に不可欠だとする認識が浮上するのは当然の帰結となります。実際、世界各国は大学進学率、大学生の学力、社会発展を連動させ、それぞれを高める国策を展開して、しのぎを削っているのに加え、大学を基軸とした高等教育の質保証を重視する動きを加速させているとの観測ができるはずで、もちろんこうした世界の動きに照らせば、日本の動きも最近の第6期中教審の動きを引くまでもなく例外ではありません。

もとより質保証は評価の問題と表裏の関係にありますから、自己点検・評価と他者評価が問題になります。周知のとおり、1991年の大綱化政策によって規制緩和とワンセットで導入された自己点検・評価がわずか7年後、1998年の大学審答申では不十分だと見直され、その代わりに第三者評価の必要性が提言されました。その結果、法的に義務化された機関別認証

評価が2007年以来実施されるに至りました。こうして7年に1回行われる認証評価は、せつかく着手された自己点検・評価による事前評価よりも認証評価機関による事後評価に軸足を移行させました。

ところが、最近になって20年前に歯車を戻し事後評価よりも事前評価の自己点検・評価に向き合い重視する政策へと回帰する動きが生まれました。このことは、大学基準協会、日本高等教育評価機構、大学評価学位授与機構などの第三者機関の監視装置の機能をかなり簡素化すると同時に、大学の自主性や主体性を重視する方向へ政策転換が生じていることにほかなりませんから、大学のオートノミー(自律性)が一層問われることを意味します。

歴史は繰り返すとはいえ、なぜ今更回帰なのかは興味ある問題ではないでしょうか。現実的には、私立大学599校の中の40%が定員割れし、少なからぬ規模の大学淘汰が生じ得る状況に直面している今日、個々の大学に責任を委ね自己点検・評価によって現状打開を求めるという政策的意図や行政的事情があるのかもしれないという観測もあるかもしれませんが、それはともあれ、大学が「学問の自由」を尊重し、「自己研究」(self-study)やIR(Institutional Research)を大切に考える限り、大学自身の自己研究そのものである質保証と自己点検・評価の遂行こそは看過されるのではなく、正論として問い直されて然るべきであると言うべきでしょう。理想的には、大学の自律性よりも他律性の力学が作用し、大学の自主性や主体性が看過される構造を持つ認証評価を見直し、「学問の府」たる大学のそもそもの本質たる自律性を高める方向を模索するものと解されます。そのことは、米国のアクレディテーションや英国のQAAなどの如く、ピアレビューを主体とした自己点検・評価を重視する方向を志向します。

認証評価を制度化するときには、アクレディテーションの米国型を下敷きにした経緯がありますが、その点で両者は同じメカニズムで機能しているはずであるにもかかわらず、第1者たる大学を中心にしたピアレビューの延長上にある米国型と第3者の他者が行う監視装置が大学と対峙する性格を多分に持つ日本型にはおのずから差異が存在します。少なくとも自己点検・評価を基本とする米国型は、1世紀もの試行錯誤を経て発展したのであり、一朝一夕に醸成されたものではありません。他方、トップ・ダウンの指導・監督が根強い日本の風土では、自己点検・評価は醸成されがたい力学が戦前から連綿と作用しました。その証拠に自己点検・評価を定着させようとした1991-98年の7年間の試行はあえなく頓挫し、失敗を招きました。この前歴と風土を考慮すると、今回の問い直しでは行政のみならず大学自身が相当の覚悟で臨まない限りその定着は覚束ないのではないのでしょうか。

犠牲者にとどけ鎮魂の祈り

音楽学部長
はやし ぼらいく お
林原 郁雄



3月11日に発生した東日本大震災は大津波を引き起こし、多くの方々が犠牲になりました。心からご冥福をお祈り申し上げます。また、被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、このたびは、2012年1月20日(金)に本学の藤花楽堂で開催されます「東日本大震災犠牲者追悼演奏会」について進捗状況をご報告させていただきます。

昨年開催しました「椿姫」でも大変ご協力をいただきました倉敷市合唱連盟（飯田永久理事長）と本学声楽部会（蓮井求道教授）との間で、今年度のオペラの企画を協議されている中で「震災犠牲者の追悼演奏会をしてはどうだろうか」との声が上がり、双方で協議した結果、倉敷市合唱連盟有志の方々とくらしき作陽大学管弦楽団が共に「東日本大震災犠牲者追悼演奏会」を実現する運びになりました。

具体的には、この演奏会を倉敷市合唱連盟の共催とし、本学学生と合唱連盟の方々総勢100余名からなる合唱団が、くらしき作陽大学管弦楽団とともに、ダニエーレ・アジマン氏（本学客員教授、ミラノ・ヴェルディ音楽院教授）の指揮のもと、W.A.モーツァルト作曲：「レクイエム」ニ短調KV.626を演奏して、震災による多くの犠牲者に祈りを捧げようというものであります。当日のプログラムにはモーツァルトの交響曲第25番ト短調K.183も加えられ、この演奏会を「くらしき作陽大学第43回定期演奏会」とすることも決定しております。

モーツァルトの「レクイエム（死者のためのミサ曲）」は、しばしばヴェルディ、フォーレの作品と共に「三大レクイエム」の一つに数えられる曲で、クラシックファンの間ではポピュラーで人気のある曲であります。最近では、ザルツブルグで行われたカラヤンの没後10周年追悼演奏会でのアバドとベルリン・フィルによる「モツレク」の演奏が話題になりました。

11月19日にはソリストのオーディションが行われ、ソプラノ、アルト、テノール、各1名、バリトン2名が決定しました。合唱は7月から練習を始めまして予定通り順調にスケジュールを消化していますが、これから仕上げていく段階に入ります。一方、管弦楽団も練習を重ねていまして、1月にはいよいよ合同練習が始まります。1月13日に来学されるダニエーレ・アジマン氏の指導が待たれるところでございます。

この演奏会を通して、私たちの祈りが多くの犠牲者の御霊にとどきますようお願いして止みません。



活躍のひろば

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学在学学生・卒業生の皆さんが、各方面で活躍されています。今回、編集部にご連絡いただいた方のご紹介をさせていただきます。

心よりお祝い申し上げます。今後益々のご活躍をお祈りいたします。

片岡 絵里	音楽学部音楽学科3年	第12回大阪国際コンクール本選	木管楽器部門	エスポワール賞
本郷 容子	音楽専攻科	第12回大阪国際コンクール本選	金管楽器部門	3位
板岡 愛美	音楽学部音楽学科4年	第12回大阪国際コンクール本選	アンサンブル部門	エスポワール賞
神野 瞳	音楽学部音楽学科4年			
平山 真実	音楽学部音楽学科3年			
古川 裕貴	卒業生	2011年度ピティナ・ピアノコンペティション	デュオ部門	奨励賞
片山 美希	大学院音楽研究科2年			
片山 舜	音楽学部音楽学科3年	下八川圭祐記念 第35回高知音楽コンクール	下八川賞大賞	
佐藤 麻里	卒業生			

本学が取り組む栄養教諭養成について

食文化学部長
やま した しず え
山下 静江



栄養教諭養成制度が、教育基本法の改正に伴い平成17年4月より新たな教諭制度として創設され、引き続き制定された食育基本法（平成17年6月）により学校における食育の位置づけが確立された。食育基本法・栄養教諭制度制定の背景には、子どもたちの食生活の乱れが深刻化し、生活習慣病の低年齢化など、食生活の乱れに起因する健康被害が社会問題となり、子どもたちの成長に必要な栄養素の過不足や将来の健全な食習慣の形成に対する悪影響を及ぼし、授業中の集中力や体力の低下など、学校生活においても深刻な影響をもたらしていることが指摘され、このような状況を改善するために、学校における食育が重要な課題とされ国家的取り組みがなされたことによる。本大学では、この法律の基本となる栄養士免許・管理栄養士免許の取得可能な学部・学科として食文化学部食生活学科（平成17年）、栄養学科において栄養教諭養成校としての認可を受け栄養教諭一種、二種免許課程として発足した。

栄養教諭とは「児童生徒に対し食に関する指導にあたる」とともに「学校給食の管理を行う」ことを主たる職務とする教員である。従来配置されていた「学校栄養職員」は教員である栄養教諭とは異なり、教育職員として位置づけられているため、「食に関する指導」にあたることは学校の裁量に任されている。その意味で、栄養教諭は栄養に関する専門性と教育に関する資質を併せもつ教員として、その専門性を十分に発揮し、特に学校給食を「生きた教材」として活用することで、食に関する指導を充実させていくことが求められる。しかし、栄養教諭が学校における食育の中核となって推進する重要性が認識される一方、大学等における栄養教諭の養成についても多くの課題がある。本学においても創設年度の履修希望者は64名であったが、履修者は年々減少傾向を示し教員の認識も充分ではない。この原因はどこにあるのか？

第一に、栄養教諭の一種・二種免許状の取得には、基礎資格である栄養士または管理栄養士免許の取得に向けたカリキュラムを同時に履修していなければならない。そのため多くの単位数が上乘せされることになる。特に一種免許基礎資格である管理栄養士養成課程では膨大な学習量に他の免許取得まで及ばないという現実がある（個人差はあるが）。

第二に、栄養教諭養成は多くの管理栄養士、栄養士養成施設で行われており（全国141校、中四国地区17校、岡山県5校）需要と供給の予測に立った栄養教諭養成がなされているわけではないので免許取得者の採用率が低い。栄養教諭を全国的に増員するなどの配置が抜本的に整備されなければ、免許を取得しているだけのペーパードライバー的な栄養教諭養成となる。

第三に、学校栄養職員から栄養教諭への制度的準備はできたが、栄養教諭配置が地方自治体に任されて法的な義務付けがないため、栄養教諭としての採用枠も広がらない。（岡山県における配置率13%、全国平均23%、東京都2%）。すなわち免許と就職の連携が悪いことにより苦勞して単位取得した割には就職としての希望がもてないことになる。

しかし、多くの課題を抱えながらも、栄養教諭制度が創設されたことは、やはり画期的な意義がある。上記のように現状では、栄養教諭自身が未来に向けてその必要性を自ら創出していかなければならないが、その「可能性」は開かれたのである。21世紀はますます予防医学の必要性が高まる時代であり、それを担えるのは栄養教諭や管理栄養士・栄養士である。未来の子どもたちの健康をつくりあげるという大事な使命こそが、栄養教諭に課せられた本当の課題であろう。自らの専門性を確保するにはその必要性を主張し、職務にふさわしい活動を積極的に展開することが不可欠である。本学部においても食育を通じた「栄養学の浸透」を目指して管理栄養士・栄養士の基礎資格の上に、栄養教諭の免許資格取得へ向けて更なる大学全体の取り組みを充実していかなければならない。たとえ就職として社会に還元できなくとも管理栄養士・栄養士が人々の健康増進に寄与する専門職業人として「教育職について学ぶ」ことは更なる質保証につながることができる。本大学はその使命を果たすべき人材の養成に向けて更なる質の向上を図る。学生は、在学期間中に用意されたカリキュラムをこなしながら立派な専門職業人としての研鑽に励むことを願う。



「完成年度を迎えて」

— 不易なるものと「只今即今」の精神 —

子ども教育学部長
やまの いあつのり
山野井敦徳



平成20年、くらしき作陽大学子ども教育学部は、〔良寛和尚と童〕の地、玉島に作陽短期大学幼児教育学科の伝統を引き継ぎ不易なる大乘仏教の精神を法灯高く掲げながら、真の人間性教育の涵養を主眼にして発足した。爾来、〔すべての道はローマ（出口）に通じる〕を目標に、4年の歳月を経て平成24年3月に待望の完成を迎えることとなった。音楽学部と食文化学部の貴重な学生定員の一部を原資として作陽学園のご期待を一身に受けての^{しごうたつ}出立であった。しかし、この4年間を鳥瞰的に眺めてみて、一期生の就職状況は期待以上の成果を挙げつつあるものの、決して順風満帆であったわけではない。

まず、入口の学生募集戦略。定員80名をどう確保するか、教職員には英知を絞って奮迅の努力をして戴いた。この4年間の受験生数は、121名から出発し、完成時には約3倍の327名まで増加させ、選抜入試の競争率は平均で約3.5倍を確保できるようになった。入学者は最低64名から最高107名に達した。この背景には、単に保育士不足や教員養成の需給関係が好転した事情もあるが、全学園はじめ関係各位のご協力を戴いたからである。とりわけ、理事長先生をはじめ、同窓生や教職員の方々のご協力なくして成果を向上させることは決してできなかった。深甚の感謝を申し上げたい。こうしたご理解とご支援を背景に、子ども教育関係の教職員や学生諸君は、いろいろな苦難を乗り越え、いや七転八倒しながらも、チーム〔子ども教育学部〕としての絆と団結力を示した。

学部の発足以前から、子ども研究センターはシンポや基調講演などフル回転で広報活動に貢献して戴き、現在も継続中である。その客員教授の方々にはわが国トップクラスの研究者揃いで学部の質の高さを全国に認知せしめた。それを切っ掛けに次々と子ども教育学部の新実験が展開された。

例えば、学部のオープンキャンパス。学生・教員・職員参加型の形式、とりわけ学生参加型を前面に打ち出したオープンキャンパスは全学の見本となった。最近では学生参加型というより学生主導型オープンキャンパスに進化し、他大学では見られないレベルになりつつある。

例えば、学部の初年次教育と実践力。〔音楽（食）に強い子ども教育学部〕、〔現場に強い子ども教育学部〕というキャッチフレーズに各担当者は恥じない成果を生み、就業力に多大な貢献をしつつある。

例えば、学部の貢献する地域活動。学部内の人形劇団〔ばれっと〕、ボランティア部〔ぼっけ〕、茶道部〔礼法研究会〕など、地域に大きな貢献力を発揮しはじめている。

こうした一連の仕掛けと活動は、さらに、出口を意識して〔卒業生を一人も路頭に迷わせるな〕というスローガンを掲げて、就職委員会なるものを結成した。その中に「小学校教員採用特別プログラム」〔教職講座〕を組み入れ、委員長を中心に小学校教育の関係者、同様に、保育士・幼稚園教諭採用対策講座も、担当責任者を中心に就学前教育関係者、さらに、発足1年後に課程認定を受けた特別支援教育関係者によって、それぞれの具体的な出口対策システムが構築された。

いずれにせよ、すべての対策は、最終的な就職という出口のアウトプットと深く関連している。その概要について述べると、卒業予定者約68名のうち、小学校教諭志望者、狭義には6名、広義には11名〔前者：専願で教職講座修了、後者：非専願で教職講座非修了〕、保育士・幼稚園教諭志望者約40名、民間企業約15名、大学院等、若干名である〔平成23年12月5日現在〕。以下、要点を箇条書きしてみる。

- ①公立小学校教諭：上記の教職講座を選択し、最後まで努力した小学校教諭専願者6名全員が、第一次・第二次を突破し、各地方自治体の教員登載名簿に掲載された（いわゆる合格）。一次は延べ11名、二次は延べ7名が合格した。関係各位のご尽力の賜である。合格した学生諸君の不断の努力には拍手喝采を送りたい。他に教員を目指して国立大学大学院に1名が合格した。
- ②保育士・幼稚園教諭：公立保育士・幼稚園教諭は延べ8名〔講師含む〕、最終試験の結果待ちがまだ4名である。残りは民間等の保育所・幼稚園の先生を目指しているが、約15名が内定を決めている。
- ③民間企業ほか：地元の企業を中心に8名が内定を決めている。就職先は区々であるが、中には、子ども教育学部で培った専門能力を生かして、社会の子育て支援を革新したいと出版業界にチャレンジした女子学生もいる。

以上、完成年度を迎えて入口から出口までの中間報告をしたが、出口の結論はまだ得ていない。むしろ残された課題は少なくない。大学淘汰の時代にあって、これまで〔只今即今〕の精神で、学部の経営管理や実践に取り組んできたが、最近、一期生の当落の厳しさを目前に見た下級生たちの目の色が変わり、態度も違い始めたと感じるのは筆者だけであろうか。〔完成年度を迎えて〕、それが事実であるとするれば、子ども教育学部の未来について少しは希望が持てるかも知れない。学部はいよいよ第二ステージ〔西日本一の学園づくり〕を目指して新たな展開を迎えることになる。

短期大学創立60周年を記念して



作陽音楽短期大学
音楽学科長
丹代 茂
たん だい しげる

昭和26年4月に家政科（昭和45年家政学科に改称）をもって津山市で創立された短期大学は今年60周年を迎えました。

創立後、昭和36年には保育科（昭和45年幼児教育学科に改称）が、昭和38年には音楽科が、そして昭和62年には情報処理学科が増設され、多くの卒業生が全国各地で活躍し作陽短期大学として広く知られてきました。

しかし平成8年倉敷市への移転を機に音楽科だけが残り、現在は作陽音楽短期大学音楽学科と名称を変更し、名実ともに西日本一の音楽短期大学として良き音楽人の育成のために日々励んでいるところでございます。

また、家政学科、幼児教育学科は現くらしき作陽大学の食文化学部、子ども教育学部の母体となって受け継がれています。

この短期大学の創立60周年を記念し、来年1月22日(日)から1月29日(日)を短大週間として、右記の日程で本学教員が、専門や長年の学内外の活動をいかした演奏会や講座を開催いたします。

どの演奏会や講座も分かりやすく楽しんで聞いていただけるものと思いますので、是非この機会においでいただき、現在の作陽音楽短期大学の様子等を見ていただきたくご案内申し上げます。

また、1月22日(日)に行われます「吹奏楽・打楽器アンサンブル」の演奏会終了後16時より7号館（食堂）に於いて卒業生の皆様をお招きし、食文化学部の製作した料理を囲みながら記念のパーティーを行い、学園長、学長を始め本学教職員とともに楽しいひと時を過したいと思っておりますので、お忙しい中とは思いますが、学部、短大、学科をこえて卒業生の皆様方には同期の友達などをお誘いあわせの上、ふるって参加していただきたくお願い申し上げます。

短期大学 創立60周年記念パーティー

日時：平成24年1月22日(日)
16:00~18:00
場所：7号館（食堂）

平成24年1月 短大週間

22日(日) 「吹奏楽・打楽器アンサンブル」演奏会

入場
無料

開 場：13:30 開 演：14:00
場 所：藤花楽堂
担 当：山下 武 教授
中井 章徳 講師
曲 目：タンホイザー序曲
組曲「カルメン」より 他

23日(月) 音楽療法セミナー 「秘められた能力を开花させる力」

参加
無料

時 間：18:45~19:45
場 所：2号館301室
担 当：柿崎 次子 教授

24日(火) 特別講座「吹奏楽よもやま話」

参加
無料

時 間：18:45~19:45
場 所：2号館301室
担 当：佐藤 道郎 准教授

25日(水) 「音楽は生きている 小学生にそっと伝える『おたまじゃくしの秘密』」

参加
無料

リズム、メロディー、ハーモニーなど、音楽づくりに必要な基本を分かりやすく解説します。
時 間：18:45~19:45
場 所：2号館301室
担 当：上甲 廣文 教授

26日(木) 「Sakuyo Festival Jazz Orchestra」演奏会

入場
無料

開 場：18:30 開 演：19:00
場 所：藤花楽堂
担 当：丹代 茂 教授
曲 目：イン・ザ・ムード
ルパン三世 他

27日(金) 「音楽デザイン作品発表会」

入場
無料

開 場：18:15 開 演：18:45
場 所：藤花楽堂 スタジオ
担 当：新名 俊樹 准教授

29日(日) 「ミュージカル」公演

開 場：13:30 開 演：14:00
場 所：藤花楽堂
入場料：一般 1,000円
学生 500円
小学生以下 無料
担 当：西村 英方 特任教授

Revolution [改革] & Development [発展]

岡山県作陽高等学校

地域に愛され、卒業生のみなさまに愛され、作陽高校の輝きが永久に輝き続ける

★全国に通用する教育内容と作陽教育カリキュラムで、幅広い目標達成・進路保障100%を具現化する、“智慧の教育”実践校★

校長代行

「心ひとつに、作陽教育の推進に向け勇敢なる一歩を！」 校長代行 中山 勇

今年度も後半になり、それぞれの学年団、生徒たちも1年の総仕上げの段階になってきました。教育重点目標として「基本的な生活習慣の確立（挨拶、掃除、合掌）」、「基礎学力の充実（進路保障）」、「生徒の活動の活性化（クラブ活動の充実）」を掲げ、生徒と教職員が一体となって日々取り組んできております。人づくりを重視し、社会を生き抜く真の人間力の育成を目指す作陽教育のこの実践を、個々の生徒・教職員レベルからより深く、より大きな波にし、心の通い合う学校、そして強固な絆で結ばれた作陽ファミリーの礎にしたいと思います。『作陽の生徒は生き生きとして存在感がある』、『礼儀正しくてさわやかである』、『何事にも懸命に取り組んでいる』などと、地域や社会で信頼され、また自らも誇れる学校を作っていくことが、何にもまして生徒第一、生徒を大切にすることになります。

『進学』では、国公立大学への進学力、難関・有名私大等の上級学校への進学力の育成を目指し、日々の授業、補講、個別指導などきめ細かい指導・支援を行っております。その過程で生徒の気づきや自覚を促し、忍耐強く生徒に寄り添うとともに内発的・自発的な取り組みを重視しつつ、学力の伸長、潜在能力の発掘と開花など他校にはない作陽スタイルの責任指導・熱心指導を進め、進学実績も着実に向上しつつあります。

今年度から立ち上げた『基礎学力向上プロジェクト』による語彙読解力検定への挑戦、英語・漢字の小テスト、英検をはじめ各種検定への挑戦など、今後の「知識基盤社会」で不可欠な基礎・基本的な学力の養成にも力を入れております。特に英検では、ここ数年の取り組みが英検協会から評価され3年連続努力賞を受賞しました。これらの実践は緒に就いたばかりですが、その継続と不断の刷新的实践こそ基礎学力の定着や社会人としての教養・知性の育成につながり、作陽生の人間力の向上に繋がるものと確信しております。

今年も『作陽スポーツ』は輝いております。柔道部の県内・中国地区での圧倒的な活躍、インターハイでの準優勝、野球部の春季県大会での優勝、ゴルフ部男女の全国トップレベルの活躍及び山口国体での男子団体優勝、また男子サッカー部の岡山県大会7連覇20回目の全国選手権出場、女子サッカー部の全国選手権出場など、目を見張る活躍をしてくれており頼もしい限りです。また県内トップレベル吹奏楽部の活躍など音楽教育の伝統も健在です。これも日頃の鍛練、継続を力に指導者の献身的かつ卓越した指導及び保護者や地域、関係の方々の熱いご支援・お力添えのおかげでもあります。

人づくりを目指し心の教育を中心に据え、基礎学力の養成、進学やスポーツの各分野で生徒それぞれが持っている能力や個性を最大限伸ばす取り組みの歩みを教職員が『心ひとつに勇敢に』踏み出すよう期待しております。



- 普通科
- スーパー特進コース
 - 特別進学コース
 - 総合進学コース(進学系・ビジネス系・保育系・福祉系)
 - 体育コース
 - 総合音楽コース(音楽デザイン系・吹奏楽系・音楽実技系)



教務

「作陽高校の教育力について」

教務部長 神田 寿則



総合進学コース1年生

報恩の日

作陽高校の卒業生には、俳優のオダギリジョー、漫画家の岸本齊史、落語家の立川志の吉、Jリーガーの青山敏弘、プロゴルファーの藤本麻子等多分野にわたり大活躍をしています。本校にとっては大変嬉しい事です。このように日本を代表する卒業生が輩出されたのには、本人の持って生まれた能力と努力はもちろんですが、作陽には個性を伸ばす教育の地盤があると思われれます。先生方の熱心な指導と、全国から集まった目的意識の高い生徒から受ける影響など他の学校にないものがあります。目的意識の高い生徒は部活動や学習面のみならず、生活面でも前向きな姿勢がみられ、他の生徒をリードしてくれており、落ち着いた学校を作っています。また、本校の教育理念や宗教を通しての人間教育が生きる力となっているのも確かです。しかし、恵まれた生徒ばかりではなく、いろいろと悩み苦しんでいる生徒も多く、立ち直るきっかけを待っている生徒もいます。我々教師としてなにを生徒にあたえ、やる気を出させるか。また、本当の幸せとは何かを今後とも教えて行きたいと考えます。そのためには教職員全員の更なる結束と努力、保護者のご理解とご協力が必要となります。来年度は制服も変わります。我々教職員一同も心新たに生徒のため全力で頑張っていきます。皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

おかげさまで サッカー一部男女共に 全国大会へ出場決定!

7年連続20回目



第90回全国高校サッカー選手権大会

第1試合 1月2日(月)
作陽 VS 中京大中京 (愛知)
西が丘サッカー場 (東京)

第2試合1月3日(火) 第3試合1月5日(木)
準決勝1月7日(土) 決勝1月9日(月・祝)

2年ぶり2回目



第15回全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権大会

2011年1月3日(火)~5日(木)<1次ラウンド>
1月7日(土) <準決勝>
1月8日(日) <決勝>

会場: 千葉市原スポーツパーク
千葉姉崎公園姉崎サッカー場
千葉市原緑地運動公園臨海競技場

生活

「生徒の状況」

生活指導部長 村上 大介



朝のあいさつ運動



朝の校門掃除

朝のトイレ掃除

今年度は校内率先事項として「挨拶・掃除・合掌」の三項目の徹底を掲げております。

- ◎挨拶について：「安心して声をかけ合える人間関係、クラスづくり」を目標に教職員はもとより、生徒間で自ら挨拶を交わし、校内をより活発にする目的のもと、一学期に「挨拶運動週間」として2週間の運動を展開しました。2学期からは生徒会執行部・各種委員会・柔道部が中心となり登校時、校門前で「挨拶運動」を実施しています。
- ◎掃除について：「自分たちの手による気持ちのよい環境作り」を目標に毎朝、校舎内（レンガ広場）、校門周辺の掃除を硬式野球部員・柔道部員が行っています。また、一般生徒も毎日放課後の掃除はもちろんですが、報恩感謝の日の講話後、校舎内の掃除、吉井川河川敷周辺のゴミ拾いも実施しています。
- ◎合掌について：「出会い（遇縁）を大切に作る心育てる」を目標に朝礼、職員会議、全校集会、授業、HR等一つの集団が、時と場所を同じくする時、その始まりと終わりに全員で心静かに手を合わせています。その合掌は礼儀としての合掌ではなく、出会いを喜び、今ここにいることを喜ぶための合掌であり、色々な人に対する感謝「ありがとう」という言葉の変わりの合掌です。

以上、生徒の生活状況としては全体的に落ち着いた状態で学校生活を送っています。「挨拶・掃除・合掌」について、引き続き指導を要しますが、今後とも生活指導の中心として「感謝の心」が育つよう実践していきたいと思ひます。

進路

「2011年度 進路状況」

進路指導部長 高峰 和三



基礎学力強化「語彙・読解力検定」



夏の学力向上合宿 in 牛窓

本年度は進学、就職に向け、全校一斉に「基礎学力向上プロジェクト」を実施しています。昨今、入試や就職試験の場で「基礎知識の習得」が課され、「表現力の豊かさ」が求められています。まさに今の社会で求められる人材そのものであると言えるでしょう。しかしながら、今の子供たちに欠如した力であることも周知の事実です。そこで本校では本年度より子供たちの語彙力、表現力そして基礎知識を習得させ、向上させるためベネッセと朝日新聞社が共同で主催している「語彙・読解力検定」取得への取り組みを始めました。公式テキストを生徒全員に持たせ、教員も一丸となって毎週課題ノートチェックを徹底して行い、指導に当たっています。この取り組みの成果も、生徒が自ら願った進路において多数の合格や内定を頂いている、まさに「進路実現」といったかたちで確実に顕れています。小論文試験や面接試験など試験の内容が多様化する中、本校生徒は日々培った基礎学力、そして豊かな表現力を最大限発揮し、自信に満ちた表情で試験に挑戦することが出来ています。現時点においても既に、難関私立大学である関西学院大学や立命館大学、関西大学などにも多数の合格者を出し、また就職においても、この不安定な経済状況の中、7割強もの生徒が企業から内定を頂いています。これもすべて日々の地道な生徒の学習活動の積み上げの成果であると考えています。さらには防衛大学校受験者数26名、センター試験受験者数56名と昨年度より大きく飛躍を遂げており、今の作陽高校の進路指導の勢いを象徴していると言えるでしょう。受験や就職試験はまだこれからも続いていきます。私たち教員は一人でも多くの生徒の「夢」を実現させてやるべく、一丸となって常に生徒に寄り添い、懇切丁寧に指導をしてまいりたいと考えております。

祝賀会

快挙！全国大会準優勝 柔道部



2011年9月29日(木)、津山国際ホテルにおいて全国準優勝の祝賀会が開催されました。学園からは理事長先生をはじめ、多数の先生方にご参加して頂きました。又、外部からも津山市長やアテネオリンピックの金メダリスト鈴木桂治選手などにご参加頂き、盛大な会となりました。地方の学校で日本一という0に近かった可能性が100に近づいて来ました。この先も生徒共々、感謝の気持ちと挑戦の気持ちを忘れず、日本一に挑んでいきたいと思ひますので、ご指導又応援をよろしくお願い致します。

新制服

平成24年度より新しい制服になります

冬服

合服

夏服



カッコイイ! カワイイ! リーズナブル!!

☆カッコイイ! 男子冬服☆

人気の紺色詰襟タイプを残し、素材にはヘリンボーンの織り柄を取り入れています。家庭で洗えるウォッシュナブルなので、魅力的です。

☆カワイイ! 女子冬服☆

赤のチェックスカートに、定番の紺ブレザー、大きな赤のリボンには、スクールカラーの緑のラインが入って可愛く仕上がっています。

☆カワイイ! 女子夏服☆

清涼感のあるグレーのチェックスカートに、オーバーブラウスを組み合わせました。前立てには藤色を取り入れています。

☆リーズナブル!! ☆

良い素材をチョイスしつつ、従来のものよりもコストダウンをはかりました。

生徒会

「生徒自身の手で全て創り上げた清陵祭」 生徒会顧問 前島 一公



清陵祭 (文化の部)



清陵祭 (体育の部)



こんごまつり

去る9月5日・8日両日「第27回清陵祭」が本年度も盛大に行われ、大成功をおさめることが出来ました。本年度は台風の接近があり、当初予定されていた4日、事前準備の3日には警報が発令されていたため、本年度の文化祭開催は中止を余儀なくされていました。しかし、全校生徒の入念な事前の準備、そして「やりたい!」という強い想い、また保護者の皆様のご協力もあり、当初予定の1日遅れにはなりましたが無事開催することが出来ました。平日にも関わらず大変多くの方々にご来場いただき、また保護者の皆様方からも多大なるご協力を賜り、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

本年度の清陵祭は一つ大きく変わった点があります。それは、「生徒自身の手で全て創り上げた」ということです。例年は教職員がある程度、企画・運営を行っていましたが、本年度は、生徒会を中心として「清陵祭実行委員会」を立ち上げ、生徒会と実行委員会が総力を結集して企画から準備、運営まで全てを行いました。初めての試みということもあり、当初は大変心配しておりました。しかし、教職員が生徒の可能性を信じる事が出来なくてどうすると思ひ、じっと事態を見つめていました。生徒たちは心配をよそに、見事に結束し、毎日遅くまで話し合いを重ね、役割分担を決め、それぞれ目を輝かせながら準備に当たっていました。そして見事にやり遂げたのです。「生徒の可能性は無限である」そのことを再度認識できた、そんな行事であったと思います。そして、生徒自身の心にも今年の清陵祭は大きく刻み込まれたことでしょう。私たちが目指してきた将来「語ることのできる」充実した高校生活の一步が踏み出せたように思います。今年のテーマ「いつやるの?『今』でしょ! ~みんなで咲かせるSAKUYOSmile!」の文字の並びに、生徒の想い全てが込められているように感じてなりません。様々な行事を通して生徒は大きく成長していく。だからこそ、行事があるのであって、その行事こそは生徒が自信を得る場である、そのように考えています。今年もまた素晴らしいドラマが作陽高校に生まれました。

渉外

作陽の魅力を発信「作陽であなたの夢を叶えよう」 渉外部長 藤井 崇広

＜作陽の教育力と慈愛に満ちた責任熱血指導で100%進路保障＞



社会を生き抜く“真”の人間力の育成を目指す智慧の教育を実践する、我々高校全教職員は、作陽生ひとりひとりを大切に、3年後のそれぞれの目標を達成させるべく、日々の努力を惜しまない。その原動力は何なのか。それは『やっぱり作陽でよかった。ありがとうございました。』という生徒からの感謝の言葉と『プライドを持って社会に羽ばたくことができます。』という誇らしい笑顔、ただそれだけなのである。

この慈愛に満ちた教育が、国立19名 私立180名という進学実績や100%の就職内定など進路保障力を生み出し、スポーツの全国的活躍や音楽分野の活躍にも、一段と拍車がかかり、“文武両道の精神”で成果を収めている。この“作陽生のがんばり”は、郷土作州地域「津山・美作・真庭」をはじめ全国の中学校や保護者の皆様から注目を浴び、本校への更なる期待と信頼へと発展しております。そして、日頃より、地域の皆様や作陽ファミリーである同窓生の皆様からのご声援には、本当に感謝いたしております。これからも、相変わらずご支援をよろしくお願いいたします。

さて、Apple社を設立し世界を席巻したSteven.P.Jobsは、『人々は、何が起るかをビタリと当てることはできない。しかし、それがどこへ向かっているかを感じ、自分に最適なものかどうかを的確に判断する。』というメッセージを残しています。渉外部では、繰り返し丁寧に、作陽教育のすばらしさとその成果を訴え続けるため、中学校や学習塾への訪問を実施しております。それだけでなく、各種説明会や計4回のオープンスクールを通して、[Revolution [改革] & Development [発展]]する本校の動きを説明し、認知して頂くための機会を増やし、作陽ファンを増やし、本校を、最適な受験校、最適な入学校として選択して頂けるよう、工夫を凝らしております。日々挑戦し進化し続ける作陽高校にご期待ください。



オープンスクールの様子

津山駅前看板

オープンスクール授業体験

作陽ザブレ (ANGE)

中学生のみなさんが来校

同窓会

サッカー部全国制覇を応援しよう! 同窓会事務局

同窓会は、平成23年度から新しい役員構成でスタートし、真庭新見支部・関西支部・関東支部などの支部活動も活発化しております。一方、母校では、改革発展の旗のもと、優れた先生方が日夜寝食を惜しんで奮闘しており、国立大学や有名私大に多数合格する名門進学校として、また、柔道部、野球部、サッカー部、ゴルフ部などが全国を舞台とした強豪校として活躍しております。とりわけ、サッカー部は今年も全国高校サッカー選手権大会で全国制覇を目指します。同窓生の温かい応援(募金)をよろしくお願いいたします。



一次試験

安心して受験にチャレンジできる「新しい入試制度と奨学金制度」

＜今年度の作陽入試4つのコンセプト＞

<p>県立高校入試問題 準拠・同レベルの 学力検査</p>	<p>中学校での がんばりを重視する 個人面接</p>	<p>作陽高3年間 がんばる気持ちを 重視します</p>	<p>保護者の皆さんの 経済的負担を 軽減します</p>
-------------------------------	-----------------------------	------------------------------	------------------------------

平成24年度入試日程

☆出願期間☆
1/18(水)~1/20(金)

☆試験日☆
1/30(月)(AM8:40~)

☆合格発表☆
2/3(金)

一般入試選択者 県立高校入試準拠・同レベルの問題。あなたの実力が発揮しやすい入試問題を出題します。

面接入試選択者 あなた自身を表現しよう。そして、安心して受験して、高校デビューの準備をしよう。

専願希望者優遇 やっぱり作陽に決めた。自信とプライドを持って高校生活を送ることが出来ます。

奨学金制度充実 作陽奨学生制度〔成績奨学生・スポーツ奨学生・音楽奨学生〕を活用することができます。

☆作陽 Family☆ [学園関係者のみなさま・同窓生のみなさま・保護者の皆様へ]
作陽高校にお任せください。
全教職員が一丸となり、ご子息の成長を全力でサポートし続けてまいります。

.....詳しくは、平成24年度学校案内・生徒募集要項をご覧ください.....
ご質問・ご相談は(0868)23-2188 岡山県作陽高等学校渉外部・入試係までお寄せ下さい。

特集 在學生・卒業生の活躍

平成23年度、様々な分野で活躍された皆さんにお話を伺いました！

2011年度ピティナ・ピアノコンペティション デュオ部門2台のピアノ上級A 奨励賞

大学院音楽研究科2年 片山 美希さん
音楽学部音楽学科3年 片山 舜さん

2011年度ピティナ・ピアノコンペティションにおいて、音楽研究科2年生の片山美希さんと音楽学部3年生の片山舜さんが、姉弟で息の合った演奏を披露されました。

大会を終えて

2台のピアノに分かれての演奏は二人離れている分、合わせるのが難しいのですが、スケールが大きく迫力ある曲を演奏できるのが魅力です。一人ひとりの技術が試されるのでなかなか出場にたどり着けなかったのですが、最終学年を機に出場しました。

これまで連弾というかたちでコンクールに出場したことはありましたが、「2台のピアノ」でのコンクールは初めての挑戦。まさか自分たちが受賞できるとは思っていませんでしたので、本当に驚きました。

今後はソロでも結果が残せるようになることを目標に練習を続けます。そして、2台のピアノで別のコンクールにも挑戦してみたいです（舜さん）。今は卒業論文等で忙しくあまり大きくはできませんが、ピアノ教室を開き幼稚園生から大人の方まで指導しています。卒業後は音楽に携わる仕事をしたいと思っています（美希さん）。



第26回ユニバーシアード競技大会（2011／深圳）にマウンテンバイク日本代表として出場

食文化学部現代食文化学科3年 桒真 賢美さん

2011年8月12日から23日まで、中国の深圳市を中心に開催された「第26回ユニバーシアード競技大会」に食文化学部3年生の桒真賢美さんがマウンテンバイク（MTB）の日本代表として出場されました。

MTBは起伏の激しい山道のコースを周回する競技で、今大会は男女各1名が日本代表として参戦しました。レース中、落車して足首を負傷するアクシデントもありましたが、6位入賞となり、応援する人々に力を与える走りを見せてくれました。

大会を終えて

2009年に出場した世界選手権では“世界の壁”を大きく感じましたが、今大会ではその壁を感じず「表彰台に上れる！」という場面もありました。本番は一発勝負であり、失敗が許されないことも実感した大会でした。今回、世界に忘れものをして帰ったので、2012年のロンドンオリンピック出場を目指して、まずは来年の世界選手権を頑張りたいです。

大学と競技との両立は難しいと感じることもありますが、励ましてくれる現代食文化学科のみんながいるから頑張れるのだと思います。大きな成長を遂げ、応援してくれる人たちに見てもらいたいです。



第12回大阪国際音楽コンクール 本選 エスポワール賞

音楽学部音楽学科4年 神野 瞳さん
音楽学部音楽学科4年 板岡 愛美さん
音楽学部音楽学科3年 平山 真実さん
卒業生 古川 裕貴さん

第12回大阪国際音楽コンクールに“アンサンブル部門サクソカルテット”で出場し、エスポワール賞を受賞されました。ノビエ作曲「グラヴェットとプレスト」を演奏したメンバー達は「この経験をこれからの活動に活かしていきたいです！」と、今後の意気込みを語ってくれました。



第12回大阪国際音楽コンクール 本選 金管楽器部門 3位

音楽専攻科 本郷 容子 さん

音楽専攻科の本郷容子さんが第12回大阪国際音楽コンクールに出場され、金管楽器部門3位に輝きました。演奏されたのは「ユーフォニアム」という金管楽器で、すんなり耳にはいる低音が魅力です。

コンクールを終えて

本番では、ベストを尽し普段どおりに演奏できましたが、入賞の結果が貼り出されたときは「まさか!」と思い驚きました。大学生になって初めて予選通過したコンクールで入賞することができ、本当に嬉しかったです。ユーフォニアムを本格的に始めたのは、中学校の吹奏楽部でした。“緑の下の方持ち”のようなところが自分の性格に合っていると感じています。

大学では授業やレッスン、カーセージ大学との交流やくらしき作陽大学ウィンドフィルハーモニーなど、有意義な学生生活を送ることができました。現在は勉強の傍ら高校生などにユーフォニアムの指導を行いながら、教員免許を活かした道も探っています。先のことはまだ分かりませんが、今後もコンクールに挑戦していきたいと思っています。



山口国体岡山県選手団 バスケットボール成年女子

食文化学部現代食文化学科1年 丹下 真帆 さん

10月1日～11日に開催された山口国体に、食文化学部1年生の丹下真帆さんが出場されました。

大会を終えて

今大会、私は主力メンバーではなかったのですが、第1試合で相手チームと点差が開き、出場させていただくことができました。選手として呼ばれたときは、選ばれた喜びと不安でいっぱいになりとても緊張しましたが、1勝を取ることができました。“全国”のレベルの高さを実感した大会でした。

自分の思うようなプレーができず辛いこともあります。そんなときは諦めずに課題に取り組みます。バスケットを通して色々な人との出会いにも恵まれました。

大学では栄養士を目指して勉強しています。学んだことを活かし、スポーツ選手としての食生活にも気を配っています。来年全国につながる大会があるので、今後はそれに向けて練習を頑張ります!



指導者として活躍中

卒業生 山本 暁彦 さん

10月24日に開催された岡山市総合芸術祭「第8回上代記念音楽コンクール」において、音楽学部音楽専攻科卒業の山本暁彦さんの門下生である森下遥さん(中1)が中学生の部で優勝され、同時に高校生まで含めた全部門の優勝者の中から1名だけ選ばれるグランプリ「上代賞」にも輝きました。そして、山本さんご自身も同コンクールにおける「最優秀指導者賞」に選ばれ、師弟ダブル受賞を遂げられました。

山本さんは現在、自身でピアノ教室をされており、「今まで教室の歴史を作って来てくれた子どもたちと、恩師、両親始め、自分を育ててくれた全ての皆様との出会いの幸運に感謝、感謝です。これからも未来に向けて頑張ります!」と大変喜ばれていました。



鶴声会だより

鶴声会近況報告

鶴声会会長 井端 豊実



平成23年4月から、くらしき作陽大学の参与というかたちで大学の学生募集に携わるようになりました。これまで同窓会会長として大学と関わってきましたが、実際に学生募集に携わってみて現実の厳しさを痛感しています。学部によって状況は違いますが、音楽については次第に厳しい状況になってきています。

こうした現状を打開するためにも、高知県での「吹奏楽クリニック」や「同窓生特別推薦入試」など、大学と同窓会との新たな連携による活動に積極的に取り組んでいます。前号でもご紹介させていただきましたが、詳しくは大学へご相談ください。

また、今年も各支部で様々な活動が活発に行われております。11月、岡山県支部では演奏会が開催されました。多くのお客様にも恵まれ、素晴らしい演奏会となりました。愛媛県支部、関西支部総会も盛大に開催され、今後の活動計画や親睦を深める機会となりました。このほかにも、鹿児島県支部の皆様には、音楽学科及び短大音楽学科選抜メンバーによる

吹奏楽団が12月27日に鹿児島公演を実施するに当たり、広報活動やチケット販売などで多大なるご支援を賜り、大変感謝しております。出演する学生も期待に応える演奏を繰り広げてくれることでしょう。

平成24年度は、鶴声会総会の年となります。詳細につきましては、来年度会報誌などでもご案内させていただきますので、是非ご出席くださいますようお願い申し上げます。

今年は卒業生・在学生の方が例年以上に活躍された年でもあります。羽地靖隆氏（尼崎市立尼崎高校勤務）は、高校野球甲子園大会で30年の間、出身地沖縄勢の応援演奏を行い、「長年友情応援を行い音楽による交流を広げた」ことが評価され、尼崎市文化功労賞を受賞されました。また、コンクールでの入賞やスポーツでの活躍、各県の教員採用試験合格など、嬉しいニュースが多く寄せられています。特集ページ（P12・13）でも紹介されていますので、そちらの方もご覧ください。

最後になりましたが、在学生、卒業生のますますのご活躍を祈念しています。



くらしき作陽大学同窓生による gala concert 2011 鶴声会岡山県支部

翠会だより

平成23年度 翠会総会並びに懇親会開催

翠会会長 石原 昌子

平成23年度作陽短期大学・作陽音楽短期大学同窓会（翠会）総会並びに懇親会を去る、11月20日(日)メルパルク岡山において開催いたしました。今回も前回の総会同様、予想を上回る約120名の卒業生が岡山県内はもとより、南は鹿児島や沖縄県から、東は埼玉、東京からの参加もあり、盛会のうちに終了することができました。

昭和30年家政科卒業の大先輩をはじめ同期会を兼ねていた卒業期もあり、恩師を囲み同級生の変わらぬ笑顔に青春時代に戻って和やかな一時を過ごすことができたのではないかと思います。

総会終了後には、元吉恵子先生率いる本学学生の「合唱隊」によるミニコンサートが行われ、華やかで美しい歌声にしばし聴き入りました。

松田英毅学園長、有本章学長を始め、お忙しいところご出席くださいました先生方には、心より厚く御礼申し上げます。

任期満了に伴う役員改選も行われ、各支部との連携を図りながら今まで以上に“元気で活発な同窓会”を目指し、役員、幹事一同気持ちも新たにしております。

次回はまた2年後（平成25年度）の開催になりますが、今回にも増して大勢の卒業生の参加をお待ちしております。

最後になりましたが、卒業生のみなさまには今後とも引き続き、短期大学同窓会翠会への変わらぬご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。



演奏会等のご案内

12月

December 2011

24日(土) ウインド・フィルハーモニー倉敷公演

〈開演〉15:00

■曲目／F.シュミット/ディオニソスの祭り 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／500円

27日(火) ウインド・フィルハーモニー鹿児島公演

〈開演〉16:00

■曲目／F.シュミット/ディオニソスの祭り 他
 ■会場／宝山ホール(鹿児島県民ホール) ■入場料／500円

1月

January 2012

17日(火) 金管合奏研究発表会

〈開演〉19:00

■曲目／W.Walton/Crown Imperial 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

20日(金) 東日本大震災追悼演奏会
(くらしき作陽大学第43回定期演奏会)

〈開演〉18:45

■曲目／W.A.モーツァルト/レクイエム ニ短調 K.626 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／2,500円

22日(日) 短期大学創立60周年記念演奏会
「吹奏楽・打楽器アンサンブル演奏会」

〈開演〉14:00

■曲目／W.R.Wagner/Tannhäuser Overture 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

23日(月) 音楽療法セミナー「秘められた能力を開花させる力」

18:45
～19:45

■講師／柿崎次子 教授
 ■会場／2号館301室 ■入場料／無料

24日(火) 特別講座「吹奏楽よもやま話」

18:45
～19:45

■講師／佐藤道郎 准教授
 ■会場／2号館301室 ■入場料／無料

25日(水) 第6回ファカルティコンサート

〈開演〉18:45

■出演／入江洋文 講師 ■曲目／ヴァイオリンとオーボエの為の協奏曲 イ短調 BWV.1060 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

25日(水) 音楽教育学科研究発表会(吹奏楽)

〈開演〉18:45

■曲目／J.Swearingen/Make A Joyful Noise! 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

25日(水) 公開講座 音楽は生きている
小学生にそっと伝える「おたまじゃくしの秘密」18:45
～19:45

■講師／上甲廣文 教授
 ■会場／2号館301室 ■入場料／無料

26日(木) Sakuyo Festival Jazz Orchestra コンサート

〈開演〉19:00

■曲目／Joe Garland/In the Mood 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

27日(金) 音楽デザイン専修生作品発表会「ミライヘノトビラ」

〈開演〉18:45

■内容／音楽デザイン専修生によるオリジナルDVD作品発表会
 ■会場／藤花楽堂地下スタジオ ■入場料／無料

29日(日) SAKUYO MUSICAL 2012

〈開演〉14:00

■演目／Song, Play, Tap, Dance
 ■会場／藤花楽堂
 ■入場料／一般1,000円・学生500円・小学生以下無料

29日(日) 室内楽(金管)研究発表会

〈開演〉19:00

■曲目／M.Mussorgsky/Tableaux d'une exposition 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

2月

February 2012

12日(日) オペラ演習Ⅰ・Ⅱ、大学院オペラ演習、演奏法
(声楽専修)、オペラ研究員、後期研修発表会

〈開演〉未定

■曲目／W.A.モーツァルト/オペラ「ドン・ジョバンニ」 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

15日(水) 大学院ハーフコンサート

16日(木)

17日(金)

■内容／大学院1年次生による演奏会
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

18日(土) 作陽マリンバ演奏会

〈開演〉14:00

■曲目／三木稔/マリンバ・スピリチュアル 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

19日(日) ユーフォニアムアンサンブルコンサート

〈開演〉13:30

■曲目／François Pétis de la Croix/Turandot 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

20日(月) 大学院 修了演奏会

21日(火)

22日(水)

■内容／大学院生による修了演奏会
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

〈開演〉10:00, 13:00, 16:00, 19:00

25日(土) ユーフォニアム&テューバアンサンブル演奏会

〈開演〉14:00

■曲目／S.Rachmaninov/Rapsodie sur un thème de Paganini 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

26日(日) オーボエアンサンブル演奏会

〈開演〉14:00

■曲目／J.S.Bach/Fuga g-moll BWV 578 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

27日(月) 第24回トランペットアンサンブルコンサート

〈開演〉18:00

■曲目／Claude-Michel Schönberg/Miss Saigon 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

29日(水) 第16回ホルンアンサンブル定期演奏会

〈開演〉18:30

■曲目／G.ロッシーニ/オペラ「セビリヤの理髪師」序曲 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

3月

March 2012

4日(日) 音楽専修学生による音楽会「音楽のたね」音楽会

〈開演〉13:30

■内容／本学音楽療法専修の学生が日頃学んでいることを活かして、お年寄りから子どもまでどなたでもお楽しみいただける音楽会
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

4日(日) 作陽混声合唱団定期演奏会

〈開演〉17:00

■曲目／木下牧子/夢みたものは 他
 ■会場／聖徳殿 ■入場料／無料

6日(火) ALL★STAR Brass Band 第13回定期演奏会

〈開演〉17:00

■曲目／Jan Van der Roost/From ancient times 他
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／500円

9日(金) 音楽学部音楽専攻科・短大専攻科音楽専攻 修了演奏会

〈開演〉14:00

■内容／本年度音楽学部音楽専攻科・作陽音楽短期大学専攻科音楽専攻を修了する学生による演奏会
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

10日(土) 音楽学部・短大音楽学科 卒業演奏会

11日(日)

〈開演〉13:00

■内容／本年度くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学を卒業する成績優秀者による演奏会
 ■会場／藤花楽堂 ■入場料／無料

※都合により日時、内容等が変更になる場合がございます。最新情報は、ホームページ、またはお電話でご確認ください。

作陽学園創立80周年記念事業に伴う募金のご報告

謹啓 歳晩の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のお引き立てを賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、作陽学園創立80周年記念事業に伴う募金に際しましては、過分なるご寄付を賜り、ご懇情のありがたさに関係者一同心より感謝申し上げる次第でございます。

昨年行いました創立80周年記念式典を始め、記念演奏会や記念オペラ公演も盛会裡のうちに終了することができました。引き続き記念事業実施と募金活動を継続して行う予定としておりますが、現状での皆様からのご支援による募金実績と募金の使途及び今後の予定を下記のとおりご報告させていただきますのでご高覧くださいようお願い申し上げます。

何卒今後とも末永くご支援、ご協力賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

謹白

平成23年12月

学校法人 作陽学園
理事長 松田 英毅

記

【募金実績額】 18,559,888円（平成23年12月1日現在）

【募金の使途】 作陽学園創立80周年記念事業

《作陽高等学校》

- ①創立80周年記念館「食堂兼男子寮」建設（平成20年4月竣工）
- ②部室棟建設（平成20年4月竣工）
- ③視聴覚室整備（平成20年4月竣工）
- ④創立80周年記念式典（平成22年11月開催）
- ⑤創立80周年記念芸術鑑賞会（平成22年11月開催）

《くらしき作陽大学、作陽音楽短期大学》

- ①くらしき作陽大学管弦楽団／ブラハ交響楽団 合同演奏会の開催（平成22年1月開催）
- ②くらしき作陽大学&国立ミラノ・ヴェルディ音楽院友好協定締結記念オペラ公演開催（平成22年9月・10月開催）
- ③フォーラム『「明日の食育を考える」 in くらしき作陽』
- ④栄養ケアセンターの設立
- ⑤子育て支援センターの設立

【本事業へのご支援をお考えの方へ】

本事業につきましては、募金趣意書に詳細が記載されております。

また、お申し込みには、趣意書に同封しております寄附金申込書が必要となります。ご不明な点等ございましたら、下記へお問い合わせください。

◇ **お問合せ先** 【大学・短大】 大学事務局 総務室 TEL:086-523-0822
【高等学校】 高校事務局 TEL:0868-23-2188

学園報に関するお問い合わせは

作陽学園事務局
学園報担当(総務室)

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822 / fax 086-523-0811
E-Mail webmaster@ksu.ac.jp